

# わが国のペレット市場の実態

## 未来を創る木材産業イノベーション研究会 (第2回)

於 日経調 会議室



2010年8月12日  
ペレットクラブ  
[www.pelletclub.jp](http://www.pelletclub.jp)

# 日本のペレット市場の課題

## 燃料に関する問題

- 急増する燃料メーカー(実際は100社以上?)
- 原料不足→建廃利用(広く普及)
- 規格・規制の不備(PCJ/ペレ協/国)
- 所管が不明確(農水/経産/環境)
  
- 2極化する市場(国産/輸入)
- 進化する海外市場(規模、国際規格)
  
- 「エコ偽装」露呈(新聞等)→信頼性?

ペレット版ミートホープ事件

## 機器に関する問題

- 多くの商品(国産16社28製品、輸入7社25製品)
- 未完成な商品(玉石混交)
- 規格・検査制度の不備(経産?)
- 設置業者の知識・経験不足
- 利用者の知識・経験不足(メンテ不足)
- メーカーの保証体制
  
- 「Made in Japan」の信頼性?
- (火災)事故の発生

ペレット版ナショナルストーブ事件

## 燃料と機器の両方に関する問題

- 増え続けるトラブル→誰に責任→相談窓口なし→当事者間の解決(例:YouTube)

消費者は誰に相談すればよいのか?

- 情報不足、統計が未整備

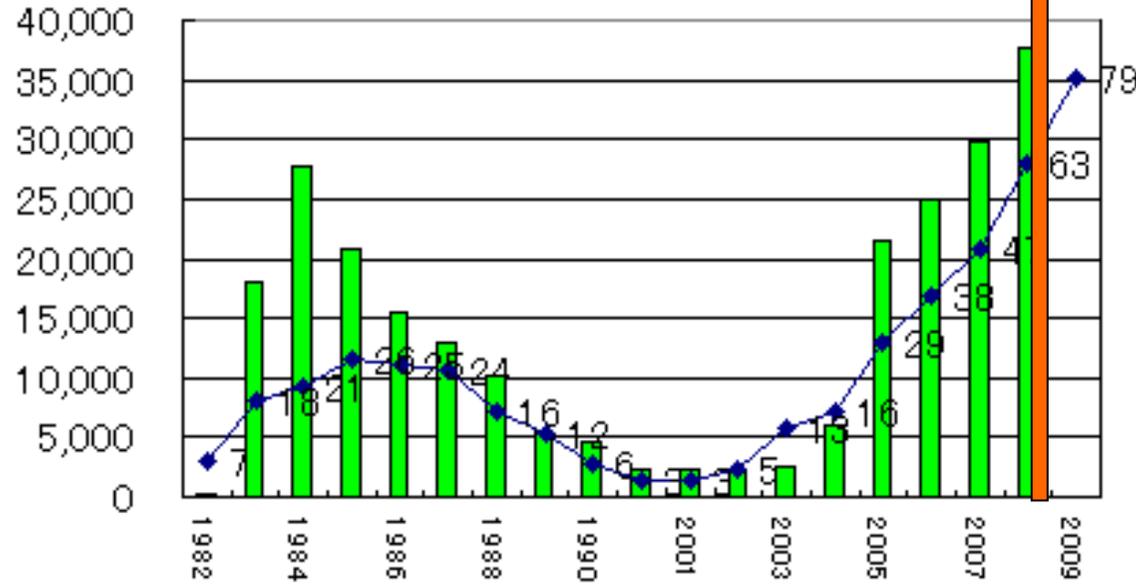
マーケットが育成されない

- このままではペレット普及のメリットが生かせない→定着化?

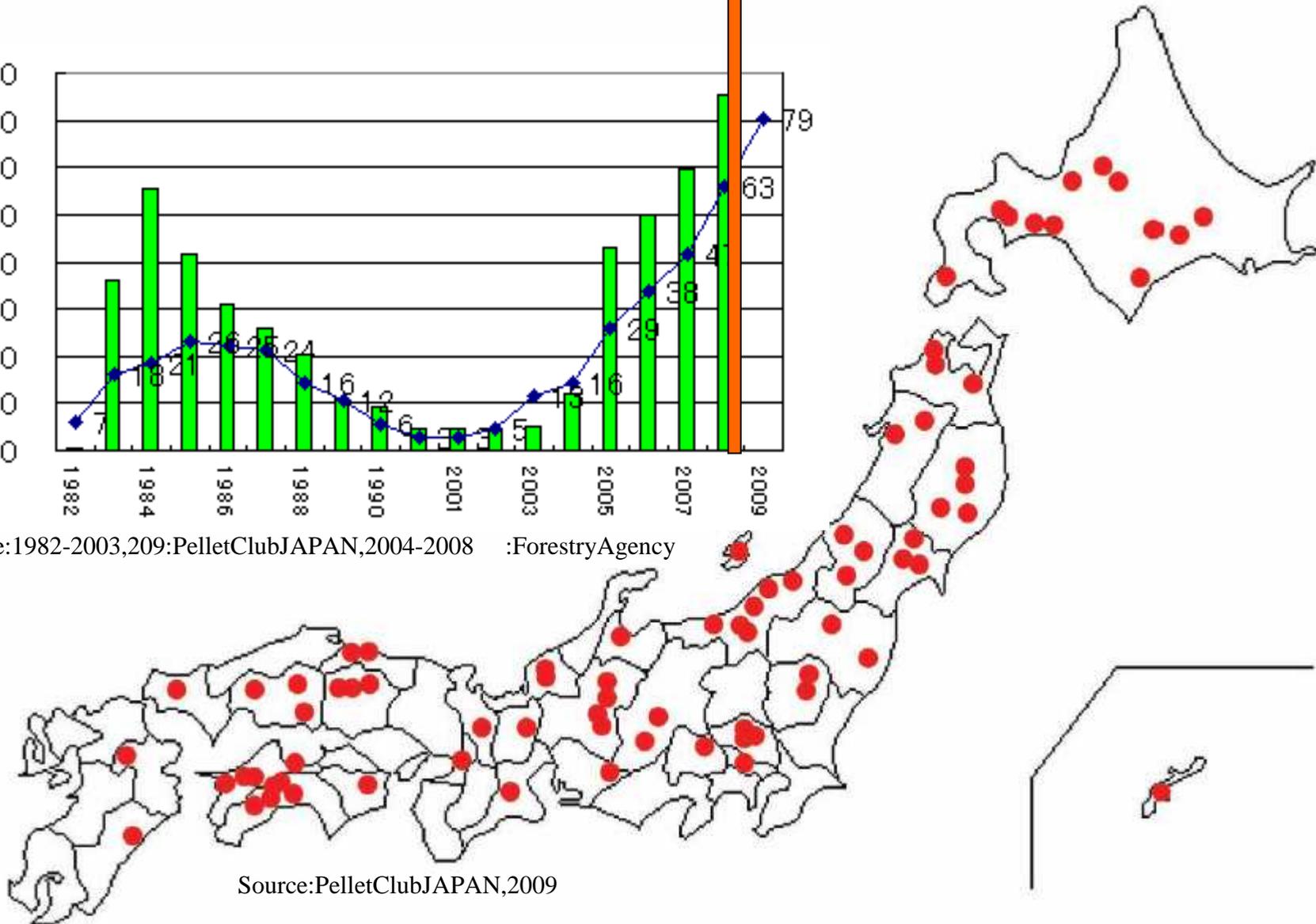
温暖化防止、エネルギー安全保障、森林資源の有効活用?

# Wood Pellets production in Japan

Import 60,000ton/y



Source:1982-2003,209:PelletClubJAPAN,2004-2008 :ForestryAgency



Source: PelletClubJAPAN, 2009

# ペレット原料の種類

原料の種類	利用割合(%)	事業所数
除・間伐材、林地残材	29	13
おが屑	18	19
製材背板・端材	17	16
プレナ・モルダ屑	15	15
樹皮	10	4
ダム堆積木・工事支障木	9	10
街路樹・果樹、剪定枝条	2	4
<b>TOTAL</b>	<b>100</b>	<b>81*</b>

\*including few materials in onemill

4

出所：日本木質ペレット協会（2009年1月）

## 設備容量とペレットの種類

設備容量 (ton/year)	工場数	ペレットの種類		
		樹皮	木部	全木
<49	9		5	4
50-99	3		1	2
<b>100-499</b>	24		12	12
500-999	8	1	1	6
1,000-2,999	4	1	2	1
>3,000	3	2	1	
<b>TOTAL</b>	<b>51</b>	<b>4</b>	<b>22</b>	<b>25</b>

# 用途別の販売数

Year	販売合計 (ton/year)	ストーブ用	ボイラ用
2006	20,068	3,196 (16.5%)	16,872 (83.5%)
2007	25,375	3,189 (12.6%)	22,186 (87.4%)
2008*	38,700	5,800 (14.9%)	32,900 (85.1%)

\*estimation, January 2009

Source: Japan Wood Pellet Association, 16<sup>th</sup> March 2009

輸入			ボイラ用
2008*	60,000		60,000

\*planned

Source: Press release, Kansai Electric Power CO.

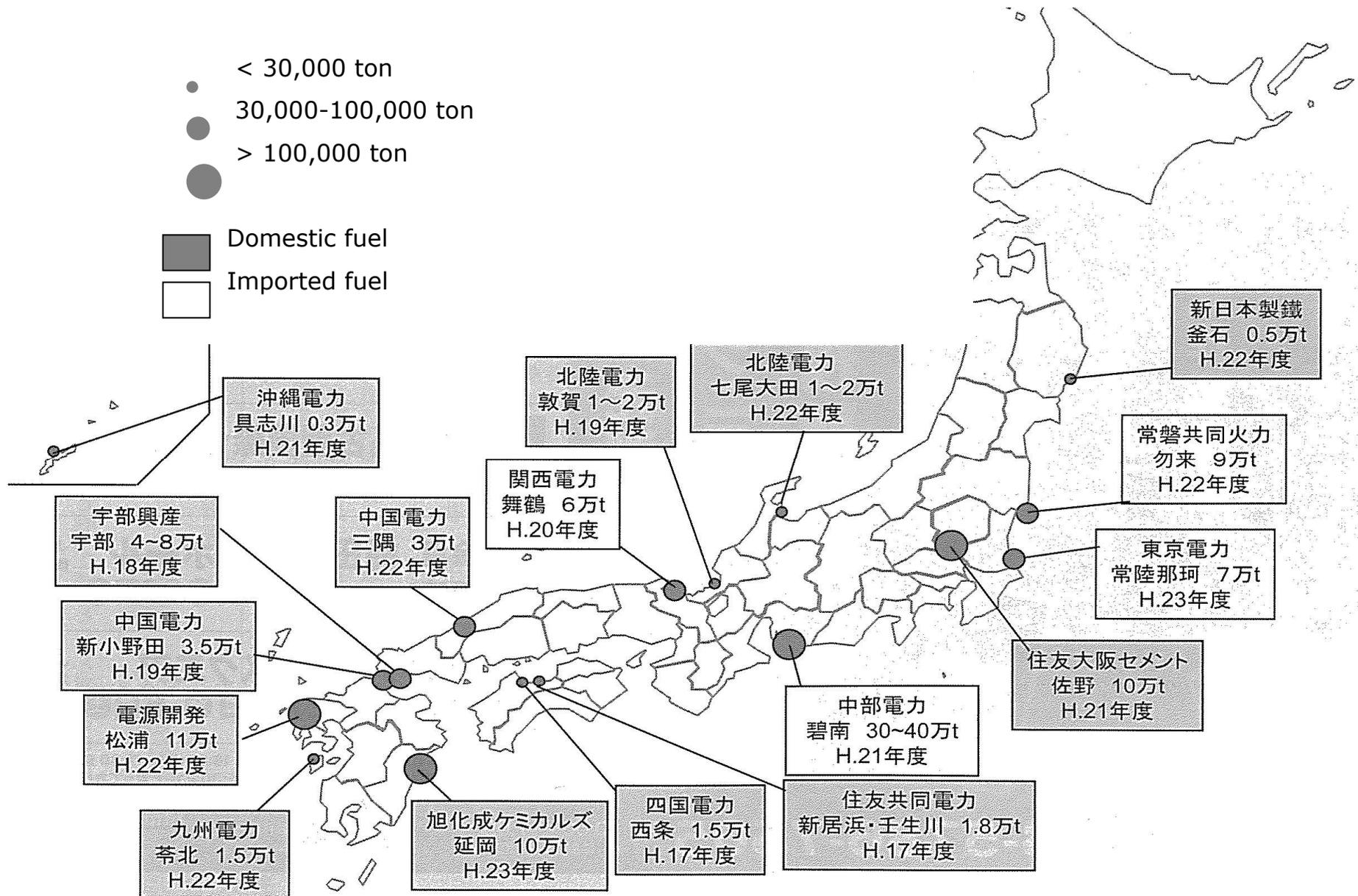
## ペレットの価格(配送費除く)

用途	ペレットの種類	工場卸価格(yen/kg)		
		高	中	低
ストーブ	樹皮	50	42	25
	木部	46	37	36
	全木	43	40	37
ボイラ	樹皮	33	28	24
	木部	43	33	33
	全木	38	34	31

\*secondsemesterof2008(June-December)

Source:JapanWoodPelletAssociation,January2009

# 混焼



Source: Rinsei-Nwes, No.380, 13 January 2010

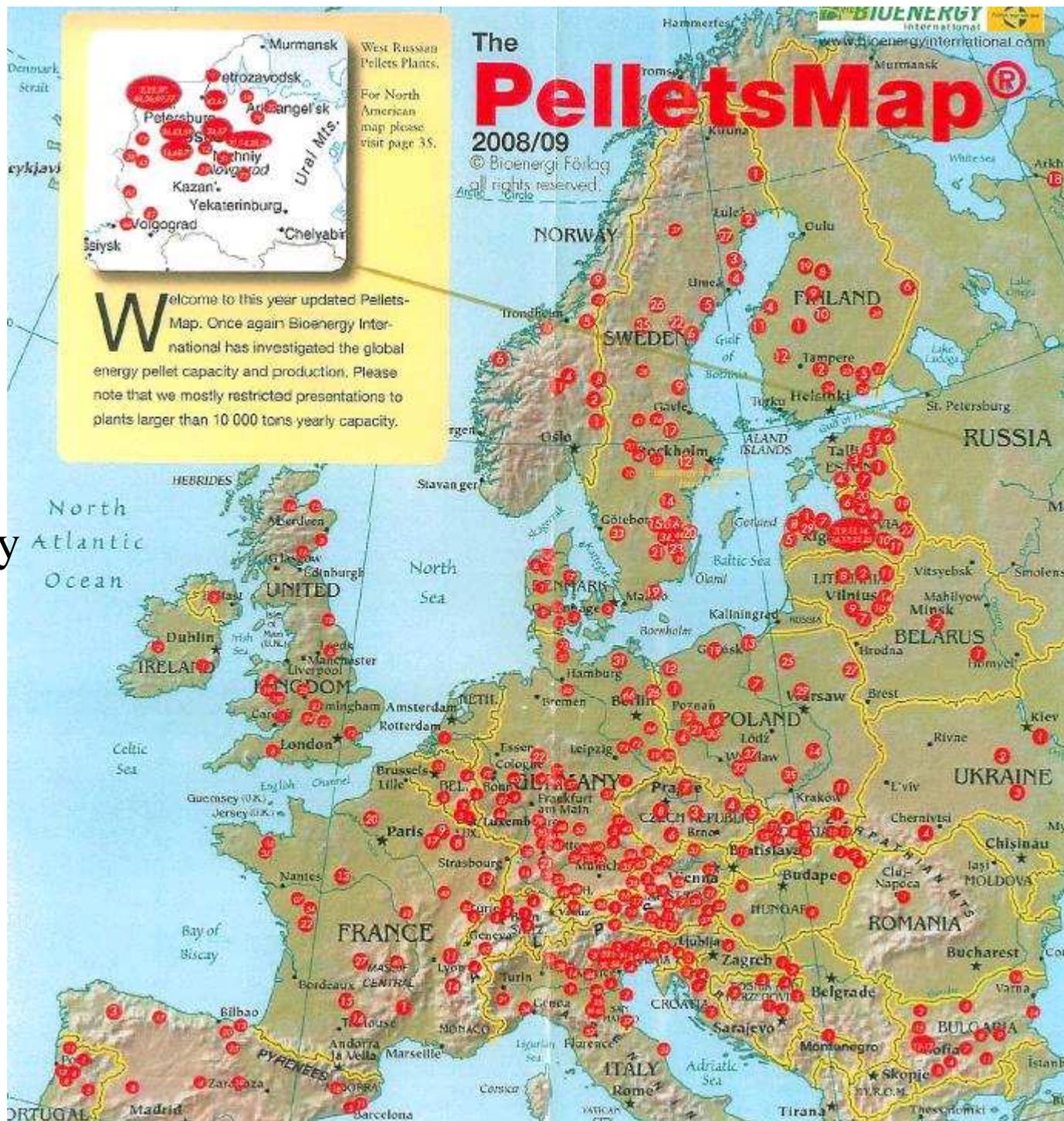
# 欧州市場

現在：800萬ton/y



2012：1,500萬ton/y

資料：Bioenergy International



# IEA Bioenergy Task40

- バイオ燃料の世界的な貿易が対象
- アンケート結果「規格化は規制というよりもむしろ機会」
- 木質ペレット利用推進セミナー（2008年1月22日）では主催者より「今回の規格は外国から入ってくるモノに対する規制をするために作った玉虫色の規格」との発言あり
- 石炭火発を中心にペレット輸入の動きが加速化、国産・輸入の線引きや原料（例：間伐材）の差別はもはや意味をもたない（一方で建廃は野放し）、このままではコメ政策の二の舞に

